



バリアフリー推進レポート



第7回移動等円滑化評価会議中国分科会を開催しました！

本分科会は高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー法)に基づき、学識経験者、当事者団体や施設設置管理者、自治体等に参画いただき、中国地方におけるバリアフリー化の進展状況の把握・評価を行うものです。

会議はオンライン・対面併用にて開催し、バリアフリー法に基づく国の基本方針に定める整備目標の達成状況の報告や、公共交通や建築物、道路などのハード・ソフトの移動等円滑化について意見交換を行いました。

【会議概要】

日時： 令和7年7月31日（木）14:00～16:00

場所： 対面・WEB併用で実施

- 議事： (1) 中国分科会の構成員について (2) 移動等円滑化の進捗状況 (3) バリアフリー等地域連絡会議の報告 (4) 移動等円滑化に関する取組事例の紹介 (5) 建築物のバリアフリー化促進について (6) 第4次バリアフリー整備目標最終取りまとめについて (7) 施設設置管理者・地方公共団体取組報告 (8) 移動等円滑化(バリアフリー)に係る事前アンケート結果についての意見交換



対面会場



意見交換（写真は手話通訳の様子）



座長 呉工業高等専門学校 神田教授



学識経験者 鳥取大学 竹川教授

【出席者】

○学識経験者

呉工業高等専門学校環境都市工学分野 教授 神田 佑亮
鳥取大学地域学部地域学科 教授 竹川 俊夫

○高齢者・障害者団体

一般社団法人 広島県ろうあ連盟
一般社団法人 広島県身体障害者団体連合会
公益社団法人 認知症の人と家族の会広島県支部
特定非営利活動法人 障害者生活支援センター・てごーす
公益財団法人 広島県老人クラブ連合会
公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会広島県支部
特定非営利活動法人 広島自閉症協会
広島難病団体連絡協議会
社会福祉法人 広島県視覚障害者団体連合会
公益社団法人 広島県精神保健福祉家族会連合会
一般社団法人 広島県手をつなぐ育成会
特定非営利活動法人 ひろしまNPOセンター

○施設設置管理者

西日本旅客鉄道株式会社 中国統括本部
中国地方鉄道協会
中国バス協会
中国ハイヤー・タクシー連合会
広島国際空港株式会社

○行政機関

鳥取県
岡山県
広島県
広島市
中国地方整備局
中国運輸局
大阪航空局

※構成員名簿は最終ページのURLから御確認ください。

【構成員のバリアフリー取組状況】

《西日本旅客鉄道株式会社 中国統括本部》

- 社員のスキルアップとしてのお客様支援、情報提供、訓練を継続して実施。
- 東広島市とともに西高屋駅を整備。具体的には駅舎の橋上化と自由通路、エレベーターの設置、バリアフリートイレの設置など。

《中国ハイヤー・タクシー連合会》

- 中国5県でのUDタクシー導入状況は、令和6年度末で167社、1,086両となっている。
- ユニバーサルドライバー研修を実施、令和7年度末で3,003名受講している。

《広島市・健康福祉局》

- 「広島市公共施設福祉環境整備要綱」を定め、公共施設のバリアフリー化を進めている。公共施設全体の福祉環境整備率は97.4%に達している。
- 市民が多く利用する施設の情報をバリアフリーマップにまとめ、HP上に掲載。370施設が登録されている。
- 昨年作成した心のバリアフリーの広告啓発動画は公式YoutubeチャンネルやSNS、市内各所のデジタルサイネージに掲載している。動画利用の御希望があればぜひ御連絡いただきたい。

《広島市・道路交通局》

- JR西日本と連携し、広島市域のJR駅のバリアフリー化に取り組んでいる。昨年12月の芸備線戸坂駅のバリアフリー化完了により、1日当たりの利用者数が3,000人以上のJR駅のうち、バリアフリー化が未了の駅は新井口駅のみとなった。
- 新井口駅についてもバリアフリー化事業に着手している。

【意見交換(抜粋)】

《エスカレーターについて》

- エスカレーターの上手な使い方がなかなかできていない。正しい使い方について周知されているにもかかわらず、歩いたり走ったりする人もおり危険である。

《回答》

- 国土交通省にて「エスカレーターの転落防止に対するガイドライン」が策定されており、関係団体には周知している。利用者自らが安全な利用方法を理解することが事故防止に効果的だと思うので、いただいた御意見については施設設置管理者にも共有し、対応していきたい。

《ヘルプマークについて》

- バスではヘルプマークを見たり、目が合ったりしたら席を譲ってくれるが、路面電車だと座席が低くヘルプマークに気づかない人が多い。また路面電車のヘルプマークの貼付について、人の目線につく場所に貼る工夫をしてほしい。

《回答》

- 広島電鉄へ確認したところ、現在は優先席付近の窓ガラス面に貼付されているということだった。いただいた御意見について、貼付場所を今後検討していきたい。

《交通系ICカードについて》

- スマホにMOBIRY DAYSのアプリを入れることを推奨されているが、発達障害の方は発行に必要なクレジットカードを持っていないため、チャージするには事業所まで行かなければならない。
- MOBIRY DAYSとICOCA(イコカ)を使い分けしている発達障害の方は、障害者割引の有無やチャージの方法などが異なり、複雑で戸惑っている様子。
- 8月にはMOBIRY DAYSも車内チャージが可能となり、今よりは使いやすくなると予想するが、希望としてはどのバス・路面電車でも同一の料金、割引で乗れるようにしてほしい。できるだけシンプルにしてほしい。

《回答》

- PASPYは更新費が高額なため維持するのが不可能という経営判断の下に廃止されたという経緯がある。
- その後の決済システムは各社によってMOBIRY DAYSとICOCAに分かれてしまったが、それぞれ説明会等を開催し、説明したり意見を聞いたりしながら工夫・改善していっているので、これからも対応していきながら便利になるように努めていく。
- 一枚のカードで全て乗れるように、という意見がたくさんあるので、事業者の方に伝える。

《みどりの券売機について》

- みどりの窓口の閉鎖に伴い自動券売機での切符購入に変わりつつあるが、ろう者にとっては手話通訳がないため筆談をする必要がある。そうすると時間がかかり、後ろに人が並ぶため遠慮してしまう。

《回答》

- みどりの券売機に手話対応のものはなく、オペレーターと画面越しに筆談をするという対応が今の技術の限界かと思う。筆談では時間がかかるという課題、また手話通訳の要望があるということは事業者としても認識している。

【意見交換(抜粋)】

《新幹線の多目的室について》

- 予約時や空き状況確認の際に駅から電話がかかってくることもあるが、非通知設定のため折り返し電話がづらい。

《回答》

- 電話の回線上の仕組みで非通知になる場合があり、わざわざ非通知にして架電しているわけではないが、折り返しの際に不便が生じることは課題として認識している。
- 「おからだの不自由なお客様のサポートダイヤル」を御利用いただくと個別の駅につなぐことができ、今ある対応の一つかと思う。しかし、こちらも24時間対応ではないという課題がある。

【学識経験者 講評(概要)】

- 障害当事者を取り巻く環境は改善されつつあるが、改善された手段を活用して自分らしい暮らしをどのように実現していくかが本質的な問題となる。
- ヘルプマークを巡るマナー問題には市民側の認識不足もあるかと思う。デジタルサイネージやYoutube等を活用し、マークの意味や見かけたときの対応について動画で啓発してはどうか。
- バリアフリー法に基づく基本方針の見直しで、障害のある人への支援しようとする人の割合が目標が掲げられているが、障害のある人へ支援をしたくても具体的にはどうしたらいいか分からない人は多いと思う。目標を掲げる際は、指標を達成するための具体的な方法も併せて記載すべき。
- 地域活動に障害当事者が参加されていることはあまりないため、今後の課題だと認識している。当事者と地域住民の距離を縮めなければ、心のバリアフリーの広がりは限られてしまう。

【座長まとめ(概要)】

- 便利さの裏返しに関係する問題が色々出てきたかと思う。特に新乗車システムについては終盤になっている議論になったところがあるので、もっと早い段階でどういうスタンスで対話をするかをしっかり考えておかなければならない。
- エスカレーターの問題もそうだが、バリアフリーはハード中心に進展してきた経緯があるが、心のバリアフリー、相互理解の点については文化を地道に作っていかねばならない。ソフト面の施策に優先順位を設定してもよいのでは。
- 設計段階から当事者と現場を見ながら対話をする機会が増えるといいが、完成後でも意見交換の場を持てるといい。好事例や改善点を蓄積し、共有することで事業者や行政の認識が高まっていくと思う。

当日の資料、議事録につきましてはHPから御覧ください

https://www.tb.mlit.go.jp/chugoku/00001_02396.html